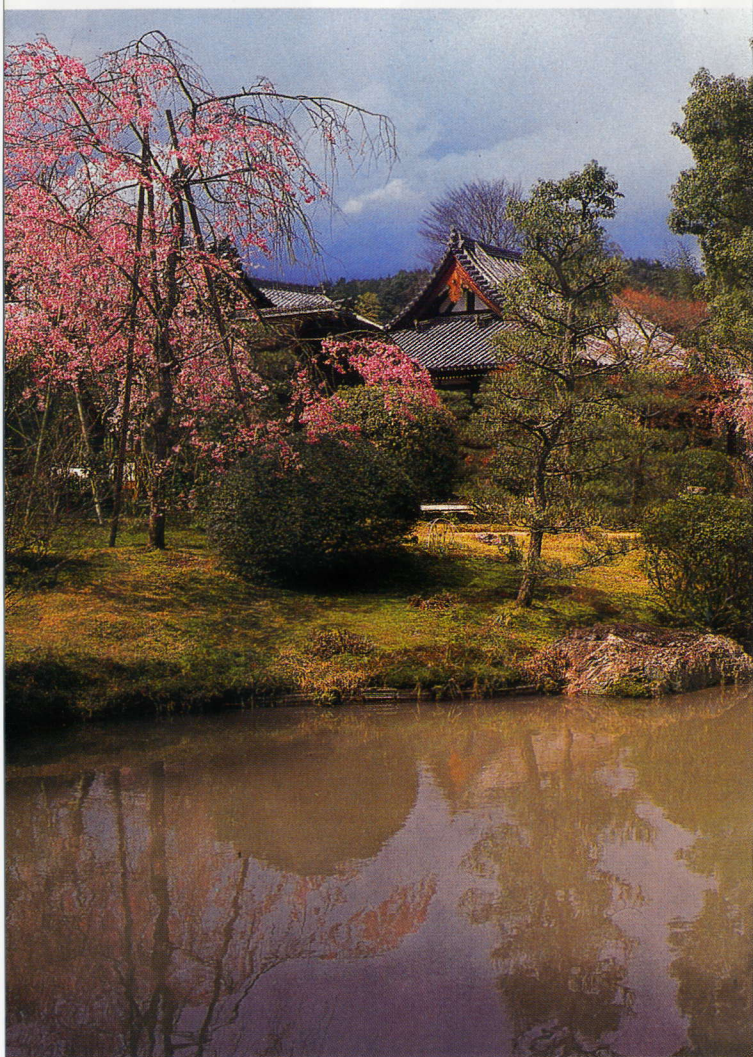


法金剛院

京都十三仏第十番霊場
関西花の寺第十三番霊場



律宗 五位山 法金剛院

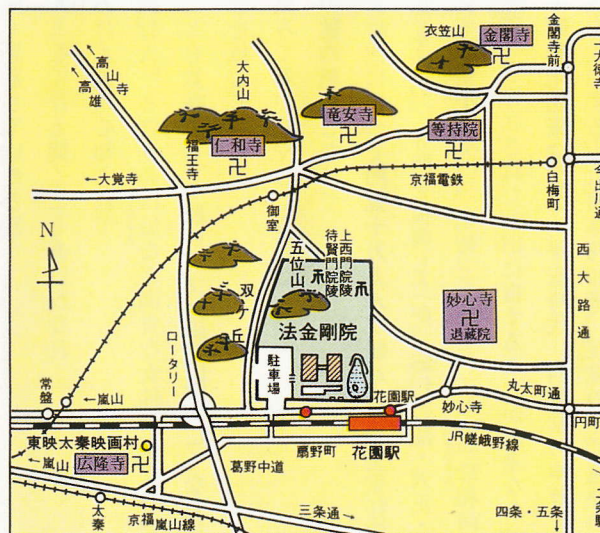
〒616-8044 京都市右京区花園扇野町 49
TEL(075)461-9428



青女の滝 (特別名勝)

庭園 (特別名勝) 平安時代

待賢門院が極楽浄土として造園させた「池泉廻遊式浄土庭園」である。なかでも石立の僧林賢^{りんけん}と静意^{じようい}の作「青女の滝」は巨岩を並べた雄大なものである。数少い平安時代の庭園であって、しかも発願者、作者がはっきりし、その遺構がそのまま残っているのは誠に貴重である。



道順 丸太町通 JR 花園駅前 { 京都バス…花園駅・黒橋 } 下車
市バス…花園扇野町



花見ごろ

◎蓮 (ハス)

七月初め～八月上旬

「蓮の寺」とも云われる。世界中の蓮を集め、苑池や鉢に植えている。極楽に咲くという蓮の花は清楚で、しかも華麗で、心をすがすがしくしてくれる。

◎枝垂桜 (待賢門院桜)

四月上旬～中旬

◎花菖蒲・菩提樹

六月上旬～中旬

◎あじさい

六月中旬～七月上旬

◎紅葉

十一月中旬～下旬





十一面観世音菩薩 (重文)

同 厨子扉十二天の内 (重文)



僧形文殊菩薩 (重文)

本尊・阿弥陀如来 (重文) 地藏菩薩 (重文)



鎌倉時代になって円覚十万人上人が融通念仏(壬生狂言・嵯峨念仏)を広め、寺門を復興したが、応仁の乱・天正・慶長の震災で、堂宇を失い、元和三年(二六一七)照珍和尚が本堂、経蔵等を建立されたが旧に復することが出来なかった。

本尊・阿弥陀如来(重文) 平安時代 西御堂の本尊で、藤原仏を代表する丈六阿弥陀如来、院覚の作で蓮弁の彫刻は誠に豪華である。(古くは定朝の三阿弥陀といわれた。平等院・法界寺)

僧形文殊菩薩(重文) 平安時代 一木彫、珍しい僧形の文殊菩薩で、老相が誠に巧みである。

地藏菩薩(重文) 平安時代 一木彫、ずんぐりした体つき衣文に古様を見せる。

十一面観世音菩薩(重文) 鎌倉時代 坐像で四手の十一面観音菩薩は珍しい、仏身は粉溜塗で、鳳凰の盛上彩色文や截金文がある、瓔珞はおびたらしい莊厳である。

同 厨子(重文) 鎌倉時代 天井に八葉蓮華の天蓋、三方開きの扉には十二天、背板には三十三身応化図が画かれている。

後陽成天皇御宸翰(重文) 「竜虎」「梅竹」の双幅、王者らしい気宇の日本の代表的名筆。(京博寄託)

蓮華式香炉(重文) 伝仁清作、大型で緑に金・紅・紫を加彩した美しい香炉。(京博寄託)

金目地藏(重文) 平安時代 丈六の大きな地藏さま。(地藏院)

法金剛院は律宗・唐招提寺に属している。この寺は平安時代の初め、天長の頃(八三〇)右大臣清原夏野が山莊を建て、死後、寺として双丘寺と称した。その頃、珍花奇花を植え、嵯峨、淳和、仁明の諸帝の行幸を仰いだ。殊に仁明天皇は内山に登られ、その景勝を愛でられ、五位の位を授けられたので、内山を五位山という。

次いで文徳天皇が天安二年(八五八)大きな伽藍を建て、定額寺に列し天安寺とされた。

平安時代の末、大治五年(一一三〇)鳥羽天皇の中宮待賢門院が天安寺を復興し、法金剛院とされた。寺は五位山を背に中央に池を堀り、池の西に西御堂(現本尊丈六阿弥陀如来)南に南御堂(九体阿弥陀堂)東に女院の寝殿が建てられ、庭には瀧(青女の瀧)を造り、極楽浄土を模した庭園とした。その後、三重塔・東御堂・水閣が軒をならべ、桜・菊・紅葉の四季おりおりの美観は見事なもので、西行はじめ多くの歌人が歌を残している。又、西行は美貌の待賢門院を深く思慕していたと言う。

なんとなく芹と聞くこそあはれなれ
摘みけん人の心知られて
「芹摘む人」と言うのは后など高貴な女性にかなわぬ恋をすることを意味する」と歌い、又待賢門院が亡くなられて、次の歌を残している。

紅葉みて君が袂やしぐるらむ
昔の秋の色をしたひて

鎌倉時代になって円覚十万人上人が融通念仏(壬生狂言・嵯峨念仏)を広め、寺門を復興したが、応仁の乱・天正・慶長の震災で、堂宇を失い、元和三年(二六一七)照珍和尚が本堂、経蔵等を建立されたが旧に復することが出来なかった。